

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. スタッフ

科長（教授）	吉田 尚弘
医員（准教授）	鈴木 政美
（講師）	金沢 弘美
（助教）	江洲 欣彦
病院助教	民井 智
	澤 允洋
シニアレジデント	2名
	（育児短時間勤務1名含む）
大学院生	1名

2. 耳鼻咽喉・頭頸部外科の特徴

埼玉県は、人口あたりの耳鼻咽喉科医の数は全国で最も少ない県の一つであり、埼玉県全体に占める二次、三次医療機関としての当センター耳鼻咽喉科の役割は大きく多数の外来、救急患者のご紹介を受けている。2023年度も新型コロナウイルス（COVID-19）感染症への対応が post-コロナへと向かう中、鼻副鼻腔、咽頭を操作する手術に関しては術前の唾液抗原検査をおこない感染がないことを確認した上で、術者への感染防御を徹底して治療、手術を行った。

2023年は医局関連病院のスタッフに新たな入局、異動があった。2023年4月より寺田由佳先生、松本侑子先生が新しく入局した。初期研修を寺田由佳先生はさいたま医療センターで、松本侑子先生は越谷市立病院で行い、さいたま医療センターで専攻医プログラム開始となった。初期研修（ジュニアレジデント）と専攻医研修（シニアレジデント）では求められるレベルが変わり

より専門的になることやさいたま医療センターと同じ電子カルテシステムを採用している施設がほとんどなく、他施設から異動してくる医師はさらに戸惑いを感じる。異動してきた先生たちがすぐに対応できるような、汎用性・共通性の高い電子カルテシステムが望ましいと感ずる。2023年6月をもってさいたま市民医療センターの山本大喜先生が外務省医務官としてバングラデシュへ赴任することになり退職となった。耳鼻咽喉科領域の知識・経験を今後の行政に大いに活かしていただきたい。9月末で松本侑子先生は群馬出身で地元に戻れるとのことで群馬大学を基幹研修施設とする専攻医プログラムに変更となった。群馬でもご自身のペースで専攻医研修をすすめ、埼玉県と同様に耳鼻咽喉科頭頸部外科医の少ない群馬県の医療に貢献していただきたい。鈴木政美准教授は、口腔、舌、咽頭、喉頭、甲状腺を含めた頭頸部領域の悪性腫瘍全般の治療に当たっていただいた。金沢弘美講師は耳鼻咽喉科領域全般にわたり、診療、レジデントへの指導を行っていただいた。江洲欣彦先生は、年度後半からは育児短時間勤務となったが、そのなか好酸球性中耳炎の臨床研究、下垂体手術、耳科手術など診療、研究に活躍していただいた。民井智先生、澤允洋先生には、地域医療とさいたま医療センターとの連携の重要性を理解していただき、さいたま市民医療センターに3ヶ月ずつ短期派遣として診療に当たっていただいた。島崎幹夫先生は頭頸部がんの治療の研修のため埼玉県立がんセン

ターへ国内留学となった。症例数の多い専門領域に特化した他施設で多くの臨床経験を積んできていただきたいと考えている。長谷川雅世先生は自治医科大学の病理学教室で大学院生としてお子さんが小さいなか研究をすすめて博士論文にまとめ、研究成果は Impact factor の高い Cancer Medicine に accept され博士課程修了となった。大学院で培った科学的な思考を今後の臨床に生かしていただきたいと思う。高橋英里先生は、短時間勤務の限られた時間の中で密度の高い診療、業務を行っていただき、その姿勢は他の医局員にとっても良い影響を与えている。キャリアアップも引き続き支援していきたいと考えている。

常に当耳鼻咽喉科を支えて下さっているのが非常勤の先生方であり、本年もご尽力をいただいた。手術日には東京北医療センターの飯野ゆき子名誉・客員教授、菊地さおり先生、開業なさっている松澤真吾先生が手術をサポートして下さった。また特別外来として第4の水曜日午後の補聴器外来は宮澤哲夫、柿崎景子先生にご担当いただいた。石川浩太郎先生には、遺伝性難聴症例の診断・治療について相談させていただき、このように非常勤の先生たちに支えられて、1年間、充実した診療を行う事ができた。耳鼻咽喉科常勤スタッフ、非常勤スタッフに心より感謝いたしたい。

耳鼻咽喉科への他院からの紹介患者は多く、これも周囲の開業医あるいは病院の先生たちのサポートのおかげと感謝している。新来患者数 773名、再診患者数13646名となった。また手術件数は前年度と比して増加し、2023年の中央手術室での手術件数は1183件（術式重複含む）、その他多数

の外来局麻手術も行なった。鼓室形成術等耳疾患の手術は217件（術式重複含む）、鼻疾患手術件数も500件（術式重複含む）であった。内視鏡を用いた鼻内副鼻腔手術、流涙に対する涙嚢鼻腔吻合手術にも積極的に取り組んでいる。咽喉頭疾患では IgA 腎症、病巣扁桃感染症や慢性扁桃炎、あるいは睡眠時呼吸障害に対する口蓋扁桃摘出術も従来どおり施行した。また耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍に加えて甲状腺腫瘍、頸部腫瘍、頭頸部がん等の頭頸部手術も254件と大きく増加した。

学会活動では、日本耳鼻咽喉科学会埼玉県地方部会、日本耳鼻咽喉科学会総会、日本耳科学会、耳鼻咽喉科臨床学会、頭頸部癌学会、日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会等にも多数演題を発表した。研究面では好酸球性副鼻腔炎・好酸球性中耳炎の病態とその治療に関する研究、ANCA関連血管炎性中耳炎慢性中耳炎、頭頸部腫瘍に関する論文、を和文、英文誌に発表した。

近隣の先生方と密に連携をとりあい、今後もさいたま二次医療圏のみならず埼玉県の地域医療の中心的存在として、幅広い耳鼻咽喉科頭頸部外科の領域全般にわたり役割を果たしていきたいと考えている。

（文責：吉田尚弘）

●施設認定：日本専門医機構耳鼻咽喉科領域基幹研修施設

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

吉田尚弘

鈴木政美

金沢弘美

江洲欣彦

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学
会専門医

民井 智

澤 允洋

高橋英里

日本頭頸部外科学会認定頭頸
部がん専門研修施設

頭頸部がん専門医・指導医

鈴木政美

日本アレルギー学会専門医認
定施設

日本アレルギー学会専門医
・指導医（耳鼻咽喉科）

吉田尚弘

日本気管食道科学会専門医制
度研修施設

日本気管食道科学会専門医
吉田尚弘

日本耳科学会認定耳科手術指
導医研修施設

耳科学会暫定手術指導医
吉田尚弘

日本鼻科学会認定鼻科手術指
導医研修施設

鼻科学会暫定手術指導医
吉田尚弘

日本内分泌外科学会認定研修
施設

日本内分泌外科学会指導医
鈴木政美

3. 診療実績・クリニカルインディケー ター

1) 新来患者数 773名

再診患者数 13646名

2) 手術症例病名別件数

耳	
真珠腫性中耳炎	67
慢性中耳炎	46
好酸球性中耳炎	6
滲出性中耳炎	29
急性中耳炎	7
癒着性中耳炎	2
伝音難聴	3
感音難聴	6
耳小骨形態異常	3
耳小骨離断	1
内耳奇形	1
コレステリン肉芽腫	2
中耳グロムス腫瘍	1
中耳腫瘍	1
耳硬化症	5
鼓室硬化症	3
先天性耳瘻孔	6
外耳道腫瘍	2
外耳道 Bowen 病	1
外耳道異物	3
外耳道狭窄症	3
先天性外耳道狭窄	1
耳介腫瘍	1
耳後部皮下膿瘍	1
メニエール病	2
ANCA 関連血管炎性中耳炎	3
外傷性側頭骨骨折	2
顔面神経麻痺	2
計	210

鼻	
慢性副鼻腔炎	102
好酸球性副鼻腔炎	50
鼻中隔彎曲症	51
肥厚性鼻炎	38
アレルギー性鼻炎	9
鼻副鼻腔腫瘍	5
鼻腔腫瘍	9
鼻腔乳頭腫	1

副鼻腔乳頭腫	6
術後性副鼻腔嚢胞	4
歯性上顎洞炎	5
上顎洞真菌症	4
上顎洞内異物	1
副鼻腔真菌症	5
蝶形骨洞炎	7
蝶形骨洞嚢胞	1
蝶形骨洞真菌症	1
篩骨洞嚢胞	1
前頭洞炎	2
前頭洞術後嚢胞	1
涙道閉塞症	19
涙道狭窄	1
涙嚢炎	5
鼻出血症	23
鼻骨骨折	1
鼻副鼻腔後鼻孔ポリープ	1
後鼻孔ポリープ	1
感染性ポリープ	1
副鼻腔気管支症候群	1
歯原性嚢胞	1
鼻性視神経炎	1
眼窩先端症候群	1
下垂体腫瘍	4
計	363

咽喉頭、口腔	
習慣性扁桃炎	25
IgA 腎症	21
掌蹠膿疱症	1
SAPHO 症候群	2
口蓋扁桃肥大	4
アデノイド増殖症	5
扁桃周囲膿瘍	11
扁桃腫瘍	3
睡眠時無呼吸症候群	13
下口唇嚢胞	1
軟口蓋乳頭腫	2
中咽頭癌	4
中咽頭腫瘍	1

中咽頭乳頭腫	3
中咽頭ポリープ	1
頬粘膜下腫瘍	1
下咽頭癌	7
下咽頭腫瘍	3
咽頭瘻	2
術後咽頭瘻	1
咽頭異物	3
下咽頭異物	1
喉頭癌	19
喉頭腫瘍	5
喉頭蓋腫瘍	1
声門癌	6
声帯ポリープ	6
ポリープ様声帯	2
声帯腫瘍	2
声帯白斑症	2
声帯嚢胞	3
声帯麻痺	6
喉頭異物	1
舌癌	3
舌白斑症	1
下顎歯肉癌	2
上顎歯肉癌	1
計	175

頸部、その他	
耳下腺癌	6
耳下腺腫瘍	42
顎下腺腫瘍	7
顎下腺癌	1
顎下部腫瘤	1
顎下部腫脹	1
顎下腺唾石症	7
顎下腺炎	1
甲状腺癌	16
甲状腺腫瘍	8
急性化膿性甲状腺炎	2
多結節性甲状腺腫	1
結節性甲状腺腫	1
腺腫様甲状腺腫	1

小脳橋角部腫瘍	1
頸部食道癌	1
側頸嚢胞	3
正中頸嚢胞	4
長期挿管	27
気管切開術後	7
呼吸不全	8
気道狭窄	1
気管切開口残存	1
誤嚥性肺炎	1
高度嚥下障害	1
降下性縦隔炎	1
急性喉頭蓋炎	1
下顎周囲膿瘍	1
頸部膿瘍	1
頸部皮下膿瘍	1
前頸部皮膚悪性腫瘍	1
菌状息肉症	1
咽頭皮膚瘻	5
術後咽頭瘻	4
頸部切創	1
頸部リンパ節腫脹	39
頸部腫瘍	2
計	208

3) 手術術式別件数

耳	
鼓室形成術	91
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術（上鼓室開放を伴わないもの）	3
乳突削開術	20
鼓膜形成術	3
鼓膜切開術	19
鼓膜穿孔閉鎖術（一連につき）	23
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	24
アブミ骨摘出術・可動化手術	6
人工内耳植込術	5
先天性耳瘻管摘出術	6
外耳道形成術	1

外耳悪性腫瘍手術（悪性外耳道炎手術を含む）	3
外耳道異物除去術（複雑）	3
皮膚切開術（長径10cm未満）	1
中耳、側頭骨腫瘍摘出術	1
耳介悪性腫瘍手術	1
顔面神経管開放術	1
鼓膜鼓室肉芽除去術	1
外耳道形成手術	4
内耳窓閉鎖術	1
計	217

鼻	
内視鏡下鼻副鼻腔手術	244
鼻中隔矯正術	65
粘膜下鼻甲介切除術	132
涙嚢鼻腔吻合術	23
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	5
鼻腔粘膜焼灼術	22
内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術（下垂体腫瘍）	8
鼻骨骨折整復固定術	1
計	500

咽喉頭、口腔	
口蓋扁桃手術（摘出）	123
アデノイド切除術	12
扁桃周囲膿瘍切開術	8
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（切除）	1
喉頭悪性腫瘍手術（切除）	5
喉頭悪性腫瘍手術（全摘）	5
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡によるもの）	18
喉頭・声帯ポリープ切除術（直接喉頭鏡によるもの）	9
喉頭異物摘出術（直達鏡によらないもの）	1
咽頭異物摘出術（簡単なもの）	1
咽頭異物摘出術（複雑なもの）	3
咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	3

中咽頭腫瘍摘出術（経口腔によるもの）	7
下咽頭腫瘍摘出術（経口腔によるもの）	2
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	6
舌悪性腫瘍手術（亜全摘）	1
舌悪性腫瘍手術（切除）	3
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	1
下顎骨悪性腫瘍手術（切除）	1
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	1
頬粘膜腫瘍摘出術	1
計	212

頸部、その他	
頸部リンパ節摘出術	54
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	36
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺深葉摘出術）	6
耳下腺悪性腫瘍手術（切除）	3
耳下腺悪性腫瘍手術（全摘）	2
顎下腺悪性腫瘍手術	1
顎下腺腫瘍摘出術	1
顎下腺摘出術	7
唾石摘出術（一連につき）（深在性のもの）	3
唾石摘出術（一連につき）（表在性のもの）	3
唾石摘出術（一連につき）（腺内に存在するもの）	1
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	7
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴うもの）	2
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘および亜全摘）（片側頸部外側区域郭清を伴うもの）	2

甲状腺悪性腫瘍手術（全摘および亜全摘）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	1
甲状腺部分切除術、甲状腺腫瘍摘出術（片葉のみ）	14
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	1
頸部郭清術（片側）	11
頸部郭清術（両側）	2
深頸部膿瘍切開術	3
頸嚢摘出術	3
頸瘻、頸嚢摘出術	3
咽頭瘻閉鎖術	2
嚥下機能手術（喉頭気管分離術）	3
喉頭形成手術（筋弁転位術、軟骨転位術、軟骨除去術）	4
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	1
気管切開術	47
気管切開孔閉鎖術	7
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔によるもの）	1
神経移行術	2
創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径10cm 以上））（頭頸部のもの（長径20cm 以上のものに限る））	1
デブリードマン（100平方 cm 以上3,000平方 cm 未満）	1
デブリードマン（100平方 cm 未満）	2
全層植皮術（100平方 cm 以上200平方 cm 未満）	1
動脈（皮）弁術、筋（皮）弁術	2
動脈（皮）弁術	1
神経縫合術（その他）	2
神経移植術	1
深頸部膿瘍切開術	3
自家遊離複合組織移植術（顕微鏡下血管柄付きのもの）（その他）	3
下顎骨悪性腫瘍手術（切断）（おとがい部を含むもの）	2

術後出血に対する止血術	2
計	254

4) カンファレンス

月曜日 8時00分 症例検討会

17時 術前・術後症例検討会
抄読会 学会発表予行
等

火～金曜日 16時30分 術前、病棟回診

4. 事業計画・来年の目標等

1) 研究について

難治性中耳炎である好酸球性中耳炎、ANCA 関連血管炎性中耳炎の病態とその内耳障害を引き起こす機序さらに治療に関する研究、鼻科領域では好酸球の関与する好酸球性副鼻腔炎の病態と治療、手術法に関する研究を行った。これらの研究成果は2022年日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会、日本耳鼻咽喉科学会総会、日本耳科学会、埼玉県耳鼻咽喉科地方部会などにおいても発表した。来年度はさらに研究を充実させ詳細な病態の解明を引き続きすすめていきたい。

2) 臨床面で

外来診療は、急性期診療、外科治療に重きをおき、いったん症状の安定した患者に関しては逆紹介を積極的に行なっている。耳鼻咽喉・頭頸部外科の幅広い領域の診療を網羅し、また若い医師の教育プログラムに関しても、手術を含む臨床的知識と技術を学び、さらに研究面にも興味を持てるように引き続き努力していきたいと考えている。